

三井住友海上 9 条の会たより NO31 2019.3.30

三井住友海上 9 条の会事務局 TEL 03-3567-8929 FAX 03-3561-2946

5・3憲法集会(有明・東京臨海防災公園)

許すな！安倍改憲発議—2019 平和と命と人権を！

5月3日は有明に集合！詳細は別紙ご参照ください。
連絡は、谷、中澤までお願いします。



亥年選挙の年(統一地方選挙・参院選挙) 9条守れ「アベ政治を許さない」

● 自民党安倍政権になって、ウソと変な言葉遣いがふえた。「丁寧に説明する」とか「記憶にない」など、国会答弁で多用されている。今年2月の沖縄県民投票で辺野古基地建設反対が70%を超えたことに対し、安倍首相は「真摯に受けとめ沖縄の皆さんに寄り添う」といったが県民の意思表示を拒否し埋め立て工事を一時中断する訳でもなくあくまで工事を強行することに外ならない。全く信用ならない。その最たるものが、憲法9条改悪の安倍首相が提案し自民党改定案になっているものである。「憲法9条1項と2項を維持した上で、9条に国民の安全を保つため実力組織として自衛隊を保持する」という条文を追加するものである。安倍首相は「この自衛隊を明記することによって自衛隊の任務や権限に変更は生じない」といっているが大ウソである。詳しい解説はパンフレットなどを見てほしい。憲法9条に自衛隊を明記すればあとからつくった法律は前の法律に優先するという法律の原則によって戦力不保持という9条2項は空文化してしまう。自衛隊は縛りから解放され、安保法制と一体に海外での武力行使に道が開かれることになる。自民党の憲法9条改定案は国民をだます大ウソである。

● 安倍政権は国政・地方行政両面から改憲の攻勢を強めている。衆参憲法審査会の自民党委員を入れ替えて安倍首相に近い強行派を配置した。安倍首相は「自衛隊員の父に対し息子からお父さんは憲法違反なの」と言われたとか情動的なことを使って宣伝をしてきた。今年は「自衛隊の新規隊員募集に対して都道府県の6割以上が協力を拒否している」と一般受けをねらって発言している。我家の孫が高校を卒業したとき女の子だが、自衛隊員募集案内が送られてきた、今は映画やテレビドラマでしか見ることができないが、村役場の係の人が、赤紙(徴兵のための召集令状)を持ってきておめでとうございますとその赤紙を青年に渡す。地方自治体が関与するという事は、そんなことまで想像してしまう、徴兵制である。9条の会の運動の広がりに対し、それに対抗して改憲の浸透をねらって国政だけでなく地方自治体をまきこんだ方策を画策している。地方自治体は隊員募集への協力の義務はないが、何らかのかたちで協力しているのが実態であるが、憲法に自衛隊を書き込めば、国の思い通り強制されることになるだろう。

● 2019年は統一地方選挙(4年に1度)と参院選挙(3年に1度)が重なる亥年選挙である。安倍首相は「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい。今もその気持ちに変わらない」と明言している。この動きを止めるためには、4月の地方選挙、7月の国政選挙・参院選挙で、自民・公明・その他の改憲勢力に反対し憲法9条を守り、民主主義を守る立場から当面する選挙に臨む必要がある。とりわけ夏の参院選では、改憲案の国会発議を目指す自民党の戦略に大きく影響する。改憲勢力が発議に必要な三分の二を維持すれば世論の支持を得たと自民党は、憲法審査会の議論を加速させるだろう。参院選挙は安倍改憲と直接対決する重要な選挙である。

● この5月から年号が変わる。政治の動きと年号区分は同じではないが、日本では年号で区分するやり方に慣らされて来た。平成は、冷戦終結で始まり、明治以来戦争のない時代であった。戦争のない社会、なかでも戦争放棄の憲法9条は守っていかねばならない。これは年号が変わっても同じである。(2019.3.20 山本)

「商社9条の会」主催 前川喜平氏 講演会 感想

2月15日、北とびあで行われ、会場いっぱいの400人超が参加しました。

前川さんと言えば加計問題で記録文書を「あったことを無かったことにできない」と国会で証言されて有名な方なので、この方の話を是非伺ってみたいと思って参加しました。

文部科学省を辞めてから講演を依頼されることが多く、2018年は230回だったそうです。安倍政権への忖度の数々を知りたいと思っている人がいかに多いかということの表れだと思います。「今は一市民となってすっきりしている」と言われて、時にはユーモアを交えながらの講演でした。

前川さんは常に心は自由でありたいと思っているとのこと。「組織人である前に一個人であることを忘れないでほしい」と常に後輩に言ってきたそうです。

「すべての公務員は全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」の憲法の条文をあげ「佐川さんもすべて話せば楽になるのに」と言われ、関係していた方が亡くなった話もされました。

たくさんのお話を伺いましたが、中でも印象に残ったのが、「今、一番こわいのは道德教育です」と言われたことです。人間の内面への限度を超えた政治介入があり、その不当な介入を防げなかった、学校を守れなかったという経験も話されました。人事権を内閣が持つようになってから、官邸の息のかかった人物が安倍政権に忖度しつつあると。また、三権分立もメディアも然りと。メディアに関しては本当にそうだと思っていましたが、裁判官までとはびっくりしました。

楽しい話もありました。前川さんは安倍首相の「安倍」をカタカナの「アベ」と書くそうです。漢字で書いたら、他の「安倍さん」に失礼でしょ。敢えて区別しているのです。「アベ政治を許さない!」「アベ」と一緒なのですよと。

また、国会前で戦争法に反対する人達の後ろの方で「アベ辞めろ!」と拳を上げて叫んでいたそうです。思わず笑ってしまいました。私達はこれから何をしたら良いかについては、世代間で対話し、若い世代に伝えていってほしい。自分で考える子供を育てることが大事と話されました。正しい情報を得て、対話をしながら同じ考えを持つ人と連帯し、改憲を阻止しなければと思いました。

前川さんは現在、夜間中学のスタッフとして関わっているそうですが、もっと詳しく知りたいと思い、著書「面従腹背」を購入し、サインをしていただき帰ってきました。

(k・O)

